

■救命救急科

1. 2021年度の目標および方針

- 1) 各職種の連携がとれた救命救急センターの運営
- 2) 初期研修医および救急科専攻医の教育の充実
- 3) 救急救命士および救命士学生の実習の充実
- 4) 救命救急科医師の過剰勤務を抑制する

2. 2020年度評価

- 1) 質の高い救急医療の提供

24時間365日救急専門医の常駐により常に一定以上の質を保つことはできた。ただ、人員不足により待ち時間または診療時間が長くなることがあった。

- 2) 多職種が一体となった救命救急センターの確立

医師、看護師、院内救命士、救急薬剤師、救急臨床検査技師、救急画像技師の連携は良好であり、各職種が各責任範囲の業務を行うことでスムーズな救命救急センターができている。コロナ禍のため積極的な勉強会が行われておらず、今後開催する必要がある。

- 3) 初期研修医の救急研修の充実

毎日の朝カンファレンスで初期研修医中心の症例提示をしてもらい、指導を徹底した。

- 4) チーフレジデントを中心とした専攻医の教育の充実

専攻医も各学年が揃い、チーフレジデントをまとめ役として勉強会を定期開催できるようになった。今後趣味レシヨントレーニングなどを充実させる必要がある

- 5) 救急救命士の実習内容の充実

救命士の実習目標を各人たてて実習を行うようにしたが、今年度は充実したとは言える成果はなかった。

- 6) 救命救急科全員が参加するメディカルコントロール体制の確立

コロナ禍であるためオブザーバー参加を極力控えたため今年度は達成できなかった。

- 7) ラピッドカーを中心とした病院前救急の活性化

医師・看護師の人員不足の影響で週2回の定期活動に加え、臨時出動は人員が確保できた時のみ行えた。

3. 救命救急科の業務内容

当科は救命救急センターの中心的な立場で、すべての救急車搬送、ヘリ搬送患者および重症患者の診療を行っている。また、平日日中に関しては小児を除く、救命救急センター来院患者の診療を行っており、いわゆるER型救急を実践している。入院患者が発生した場合は基本的には担当診療科に治療をお願いし、救命救急科は外傷・外因性疾患の入院を担当している。重症患者は集中治療科が担当しICU管理を行う。

当救命救急センターは過疎および高齢化がすすむ地方にあるため、高齢の内科的疾患が多く、社会的要因も含めて救急車で搬送される約7割が入院となる。

4. 実績（2020年）

	症例区分	件数
1	心停止	75

2	ショック	48
3	内因性救急患者	14,599
4	外因性救急患者	5,500
5	小児および特殊救急	2,238
6	救急車（ドクターカー、ヘリ含む）	3,644
7	救急入院患者	5,152
8	重症救急患者	2,240

5. 学術関係

論文発表・学会雑誌

- ・佐々木 暁洋、他：眼内異物より発症し長期の集中治療ののちに歩行可能となった90歳女性の頭頸部型破傷風の1例 日本集中治療医学会雑誌第27巻
- ・日下 伸明、不動寺 純明：救急科運営においてチームレジデント制を導入したに関する検討 日本救急医学会雑誌第31巻11号
- ・白石 淳；骨粗鬆症研究者のためのやさしいR（第8回） 多変量解析 線形回帰分析とロジスティック回帰分析 日本骨粗鬆症学会雑誌 第7巻1号
- ・白石 淳；骨粗鬆症研究者のためのやさしいR（第7回） 単変量解析 日本骨粗鬆症学会雑誌 第6巻4号
- ・白石 淳；骨粗鬆症研究者のためのやさしいR（第6回） 記述データの可視化 日本骨粗鬆症学会雑誌 第6巻3号
- ・白石 淳；骨粗鬆症研究者のためのやさしいR（第5回） 記述データの可視化 日本骨粗鬆症学会雑誌 第6巻2号
- ・白石 淳：日本外傷データベース解析術 研究デザイン 日本外傷学会雑誌 34巻5号
- ・白石 淳：トラネキサム酸はすべての外傷患者に有用か？ 日本外傷学会雑誌 34巻5号
- ・白石 淳、他：外傷性凝固異常（traumainduced coagulopathy）外傷性凝固異常の機械学習を用いた臨床分類とその特徴 FORECASTTrauma 研究 日本救急医学会雑誌 31巻11号
- ・白石 淳：TRIAGES scoreを用いた外傷病院前トリアージ 日本救急医学会雑誌 31巻11号
- ・不動寺 純明：【ライフラインパニック 想定外に対応できるか!】ライフラインパニック時の医療支援 地域広域停電時の地域における医療機関の役割 救急医学 44巻8号

学会・研究会発表

- ・第11回 オンライン九州Ai研究会 伊藤 憲佐：PCPSカテーテルの迷入と思われる症例
- ・第48回 日本救急医学会総会・学術集会 日下 伸明：救急科運営においてチーフレジデント制を導入したに関する検討
- ・第48回 日本救急医学会総会・学術集会 白石 淳：「外傷性凝固異常の機械学習を用いた臨床分類とその特徴 FORECAST-trauma 研究」他
- ・第34回 日本外傷学会総会・学術集会 白石 淳：「トラネキサム酸はすべての外傷患者に有用か？」
- ・第48回 日本集中治療医学会学術集会 高橋 盛仁：腫瘍減量術と腹腔内温熱化学療法後に大量出血と腹

膜炎による多臓器障害を認め、治療に難渋した一例

文責：不動寺純明